天誅組の変

出陣する中山忠光（天誅組出発之図　水郡睦子氏蔵より）

五條市教育委員会

天誅組出発之図（水郡睦子氏蔵）

天誅組とは

天誅組は幕末の文久3年（1863）8月、江戸幕府を倒して新しい日本を創るさきがけになろうと立ち上がった、中山忠光を盟主とする尊王攘夷の志士たちです。

中山忠光は当時19歳の血気盛んな青年貴族でした。後に明治天皇となる祐宮の叔父にあたり、祐宮の侍従を務めたこともありました。

忠光のもとには、土佐（高知県）出身の吉村虎太郎、三河（愛知県）出身の松本奎堂、備前（岡山県）出身の藤本鉄石が三総裁として仕えていました。

また五條在住で天誅組に参加した志士には、乾十郎・井澤宜庵の二人がおり、丹生川上神社の神職を務めていた橋本若狭も、宇智郡滝村（五條市滝町）の出身でした。

天誅組軍旗
（米田知代氏蔵）

森田節斎

森田節斎は文化8年（1811）に五條で生まれ、15歳の時に京都で頼山陽に入門したのち、各地を遊学して立派な儒学者に成長し、吉田松陰など尊王攘夷の志士たちを教育しました。天誅組に参加した志士にも、乾十郎や原田亀太郎など節斎の指導を受けたものがいました。

天誅組の変当時は倉敷で塾を開いていましたが、幕府から危険人物と目されたので塾を閉めて故郷へ帰り、最後は紀州粉河近くの荒見村（現在の和歌山県紀の川市粉河）に隠れ住み、慶応四年（1868）に同所で亡くなりました。

そのころの五條

そのころの五條には幕府の代官所が置かれ、周辺の幕府領（天領）を支配する政治の中心地でした。それでも代官所は、数名の役人しかおらず警備も手薄で、倒幕の狼煙を上げるには都合の良い攻撃目標でした。

また、森田節斎のような尊王の儒学者が生まれたように、そこに住む人々の教養も高く、尊王思想にも理解があったようです。

また、五條は朝廷を崇拝する気風が伝統的に強い十津川の玄関口であり、反幕府の機運が高まると、京都の志士が節斎と連絡を取り合いながら、十津川に入って郷士たちに決起を呼びかけていました。

天誅組の変

文久3年、そのころの日本ではいわゆる鎖国が終わり、外国人が日本に入り込んでくるようになりました。それと同時に江戸幕府の権力が弱くなり、多くの人たちがこれからの日本はどうあるべきなのかを真剣に考えていました。

そんな中で、天皇を崇拝する思想である尊王論と、外国を排除する思想である攘夷論とが結びつき、幕府を倒し天皇が直接政治を行う新しい社会を創ろうとする尊王攘夷派と、幕府を立てなおし朝廷と幕府が協力して政治を行おうとする公武合体派との間で、険悪な雰囲気となっていました。

同年8月、朝廷の要職に就いていた三条実美ら尊王攘夷派の公家たちは、幕府に攘夷決行の命令を下しましたが幕府はためらってそれを実行しようとせず、ついに実美たちは倒幕の策を練りました。それは孝明天皇に神武陵・春日大社で攘夷を祈願する大和行幸を働きかけ、それに乗じて倒幕の兵を挙げようというものでした。そして思惑通り8月13日（旧暦）、大和行幸の詔が発せられました。

それを受けて、倒幕軍の先鋒になろうとした天誅組の志士たちは密かに京都を出発。70～80人ほどの軍勢で五條代官所を襲撃したのは、8月17日の七つ時（午後4時ごろ）のことでした。

天誅組は、五條代官の鈴木源内らを殺害して代官所を焼き払うと、櫻井寺を本陣に代官所管轄下の天領を朝廷に差し出すと宣言しました。

後は天皇の行幸を待つばかりとなり士気も高まる天誅組でしたが、翌8月18日、京都では公武合体派が政変を起こし、三条実美ら尊王攘夷派は失脚した（8月18日の政変）ために大和行幸は取りやめとなり、一転して天誅組は逆賊として追討軍に追われるところとなりました。

天誅組は、尊王の志が厚い十津川に立てこもってそこで兵を募り、高取城を攻めるなどなおも抵抗を続けましたが、天誅組が反乱軍となった事実が十津川郷士に知れると、彼らも離反して勢力は日に日に弱まり、9月24日に吉野郡小川郷鷲家口（今の東吉野村小川）でほとんど全滅しました。

天誅組の変は、尊王攘夷派によって試みられた最初の反幕府武装蜂起だったのです。

そうした意味で、天誅組の変は明治維新のさきがけとなるものであり、五條が明治維新発祥の地と言われるゆえんでもあります。

和州騒動之図（三重県名張市赤目町柏原区蔵）

炎上する五條代官所（和州騒動之図より）

天誅組日誌

文久3年（1863）

8月13日	孝明天皇、攘夷祈願のための大和行幸の詔を出す
8月14日	中山忠光以下39名、京都方広寺に集合　船で大坂に向かう
8月15日	朝、大坂に到着、同夜船で堺へ向かう　船中で軍令書を発表する
8月16日	狭山を経て富田林に入り、甲田村庄屋の水郡善之祐方に宿泊する 狭山藩などから武器を徴発する
8月17日	甲田村を出発、観心寺に向かう　後村上天皇陵・楠公首塚に参拝 藤本鉄石が合流 千早峠を越えて五條に入り、五條代官所を襲撃、代官鈴木源内らを殺害。本陣を櫻井寺に置く
8月18日	代官らの首をさらし、挙兵の趣旨を布告、年貢半減を宣言する 8月18日の政変、大和行幸が中止になる
8月19日	天誅組に「朝議急変」の知らせが入る
8月20日	吉村虎太郎・乾十郎、募兵のため十津川郷に入る。本陣を阪本に移す（途中、賀名生 堀家に立寄る）
8月21日	本陣を天辻に置く
8月22日	橋本若狭、同志をつれて本陣に到着する
8月23日	吉村虎太郎、十津川郷士の参加を督促する
8月24日	十津川郷士約960名が呼びかけに応じる
8月25日	全軍千余名が天辻を出発。夕方五條に着く
8月26日	高取城を攻撃、惨敗して本隊は天辻へ敗走する。 吉村虎太郎ら決死隊が再度夜襲をかけるが失敗し、吉村虎太郎は負傷する
8月27日	吉村虎太郎ら五條に戻る
8月28日 〜 9月 5日	長殿村－風屋村－武蔵村－風屋村－辻堂村と、本陣を転々と移動する
9月 6日	恋野村を焼き討ち　本陣を天辻に移す
9月 7日	大日川の戦い　本陣を白銀岳に移す
9月 8日	栃原・樺木の戦い　橋本若狭ら広橋に奮戦
9月 9日	下市の追討軍本陣を焼き討ち
9月10日	大日川に滞陣する
9月11日	本陣を天辻に移す　水郡善之祐ら河内勢脱退する
9月12日	本陣を小代村に移す
9月13日	本陣を上野地村に移す
9月14日	追討軍が天辻に迫り、陣屋に火を放ち放棄する
9月16日	十津川郷士が離反し、天誅組が十津川退去を決める 本陣を風屋村に移す　退路を求め伴林光平ら先発
9月17日	本陣を小原村に移す 光平ら嫁越峠を越えて前鬼村に着く
9月18日	本陣を下葛川村に移す 光平ら白川村に到着し、その後光平らは脱出する
9月19日	忠光ら本隊は笠捨山に露宿する
9月20日	北山郷浦向村に着く
9月21日	白川村林泉寺に泊まる
9月22日	白川村に滞陣する 河内勢が竜神で幕府軍に降伏
9月23日	携帯の食料・荷物を林泉寺とともに焼き捨て、夜を利用して伯母ヶ峰を越える
9月24日	武木村に到着、最後の会食を行い、鷲家口村に向かう 鷲家口村の乱闘で那須信吾らの決死隊が全滅　中山忠光ら主従7名は脱出
9月25日 〜 9月27日	三総裁が相次いで戦死 光平、添下郡北田原村（今の生駒市北田原）で捕縛される その後各地で志士が戦死あるいは捕らえられる 中山忠光ら大坂の長州藩邸に入り、長州へ逃れる

元治元年（1864）

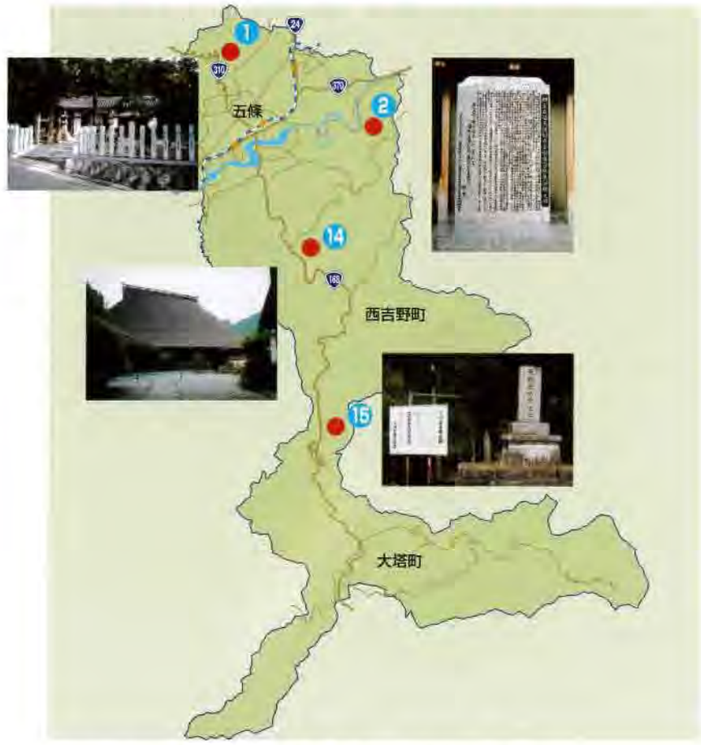
2月16日	伴林光平ら19名、京都で処刑される
7月20日	乾十郎ら14名、京都で処刑される
11月 5日	中山忠光、長州で暗殺される

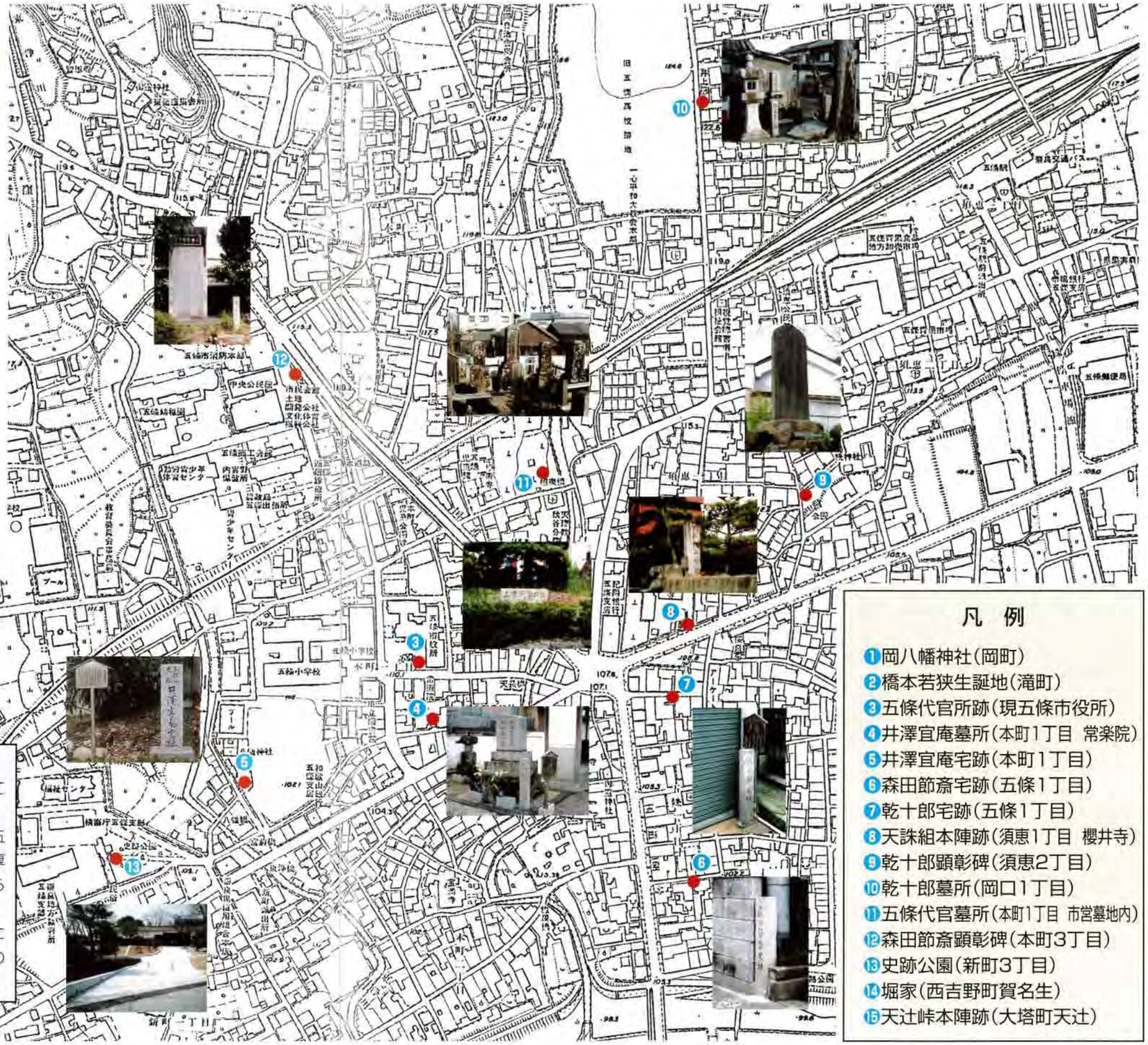
慶応元年（1865）

6月	橋本若狭処刑される
7月28日	井澤宜庵獄死

天誅組の足取り

五條市内の天誅組史跡





凡　例

1. 岡八幡神社（岡町）
2. 橋本若狭生誕地（滝町）
3. 五條代官所跡（現五條市役所）
4. 井澤宜庵墓所（本町1丁目　常楽院）
5. 井澤宜庵宅跡（本町1丁目）
6. 森田節斎宅跡（五條1丁目）
7. 乾十郎宅跡（五條1丁目）
8. 天誅組本陣跡（須恵1丁目　櫻井寺）
9. 乾十郎顕彰碑（須恵2丁目）
10. 乾十郎墓所（岡口1丁目）
11. 五條代官墓所（本町1丁目　市営墓地内）
12. 森田節斎顕彰碑（本町3丁目）
13. 史跡公園（新町3丁目）
14. 堀家（西吉野町賀名生）
15. 天辻峠本陣跡（大塔町天辻）

鈴木源内

事件のとき五條代官だった鈴木源内は、天誅組から幕府の手先として厳しく断罪（だんざい）され殺されてしまいました。

実はこの鈴木源内という人は、事件の前年に五條に赴任し、当時既に60歳くらいで人柄は温厚善良、領内で長寿の老人を表彰するなど領民からもよく慕（した）われた代官だったといわれています。

しかし、天誅組が倒幕のさきがけとなるからには、何が何でも代官を悪者にする必要があったのも仕方のないことでした。

鈴木源内の首を洗ったとされる水盤（櫻井寺）

天誅組の足跡を訪ねて

天誅組は京都を出発して淀川を舟で下り、一度海へ出てから堺に上陸し、富田林から千早赤阪を抜け、千早峠を越えて五條に来ました。彼らは千早峠で地元の村役人の出迎えを受けると、岡の八幡神社で襲撃前の最後の休憩をしたと伝えられています。

そして五條代官所を焼き払った天誅組は櫻井寺に本陣を構え、五條御政府の看板を掲げました。

天誅組堺上陸の地(堺市堺区)

しかし8月18日の政変で彼らは一転して反乱軍となりました。そこで彼らは天辻峠や白銀岳に陣を張り、起死回生を図って高取城を攻撃したり、下市や大日川で幕府軍を迎え撃ったりしましたが、幕府軍の包囲は日に日に狭まりました。

最後には十津川を退去せざるを得なくなり、大峯の険しい山々を越えて小川郷鷲家口で幕府軍に最後の戦闘をしかけ、そこで全滅しました。

富田林で天誅組が集結した水郡邸

千早峠

櫻井寺(天誅組が本陣にした旧本堂)

上野地の本陣跡(十津川村)

風屋の本陣跡(十津川村)

高取城攻めの鳥ヶ峰古戦場(高取町)

吉村虎太郎最後の地(東吉野村鷲家)